

付記：日本人の海外安全

2013年7月16日にアルジェリアでイスラム武装勢力により日本人を含む外国人37人が犠牲になりました。

この事件を機に日本人の海外安全が大きい課題になり、多くの企業でセミナーが開催されました。

私も「海外安全セミナー」の講師の一人として話しました、

以下はその時の記録です。KOZOOMサロン28の皆様にご参考になれば幸いです。

● アルジェリア人質事件（2013年07月15日 朝刊）

プラント建設会社「日揮」が請け負っていたアルジェリア南東部イナメナスの天然ガス生産施設が今年1月16日早朝、イスラム武装勢力に襲われた。犯人グループは外国人らを人質に取り、隣国マリに軍事介入したフランス軍の撤退などを要求。アルジェリア政府は拒否し、軍事作戦を強行した。セラル首相は、死亡した外国人人質は8カ国の37人と発表。日揮の関係では、社員ら日本人10人を含む計17人が死亡した。

質問コーナー セミナーとコンサルティングの現場から

太田隆次

Q. アルジェリアで痛ましい事故が起きました。人数は少ないですが当社でも海外に駐在員を派遣しています。人事部として海外安全について万全を期しているつもりですが、今回の事故を契機に改めてチェックポイントにより見直したいと思います。どのような項目を確認すればよいのでしょうか？

A. 日本人は、「水と安全はタダと思っている」といわれます。海外で暮らしている日本人は現地人から見ると、まるで無防備に近いと評されることが多いようです。

最近、国内でも荒っぽい犯罪が増え物騒になり、もはや日本はかつてのような安全な国ではなくなりましたが、国内では何でもないことが外国では危険なことがまだまだ多いのです。

項目別に「海外安全チェックリスト」を図表にしましたので説明します。

- 住居** まず安心できる住宅環境を選ぶことから海外安全は始まる
途上国では、外国人用の住宅として専用の住宅街や集団住宅が用意されていることが多いので、自分で探すことはまずない。しかし、使用人、出入りの業者などの中には警戒しなければならない人々がいる。留守の間に、物品がなくなったという話は珍しくない。経験者によると、物品がなくなってもむやみに騒がないことが肝要とのことである。
- 鍵** 鍵は完全には信用できないと知る
最近では日本でも鍵は簡単に開けられることが分かってきて、鍵を取り替えたり二重三重にすることは当たり前になった。
日本で昼夜、鍵をかけていない家庭も多いのは驚きである。
- 電話** 電話は最小限の用途すなわち連絡だけにとどめる
電話番号は公開しない、盗聴されても困らない話しかしない、業務には使わない。
- 貴重品** クレジットカードを失ったらどうするかの手順を平常から用意しておく
海外では現金の持ち歩きは危険なので、クレジットカードを携帯することが多い。最近では盗難届けを出すと即刻無効になる、まさかの場合は保険が出る、など実害は少ないが、しかし、カードの番号、警察署の所在地、発行元の電話番号の三つの情報は最小限必要なもので、必ず留守宅も別に控えておくことを習慣づける。
- 襲撃** 「忍」の一字で耐え、相手を刺激しない
人質を捕っている犯人や脅迫犯人は異常な緊張状況にあり、いらだっているから、普通の会話は不可能で、ただただ忍耐し反抗的態度をとらないことが肝要とされる。目立つ言動は絶対に避ける。
- 事務所** 入口出口を抑えることがポイント
入口出口にガードマン、ボディチェック、監視テレビを置きセキュリティに万全を期する。
- 自動車** 標的にされないことがポイント
自動車は標的にされやすい。決まった時間帯に決まった経路で通らない。車体に社名を書かない。
- 交通機関** 狙われないことがポイント
地下鉄、電車、バスなど公共交通機関では、一人にならない、荷物から離れない、居眠りしないなど、要するに「油断している所を狙われない」ことである。日本で日本人乗客が車内で寝ているのは外国人には驚きである。
- ホテル** 部屋も一般道路並みという認識がポイント
廊下だけでなく部屋も一般道路と思って、鍵だけに頼らない、貴重品を置いて外出しないなど注意する。エレベータの中では乗り合わせた人に軽く挨拶、会釈すると効果がある。
- 歩行** 常に前後左右を警戒することがポイント
回り道になっても、人通りの少ない近道や公園を斜めに渡ることは避け、ひたたくりや甘言に乗せられないよう、常に警戒を怠らない。

詳しくは図表の「海外安全チェックリスト」を参考にしてください。